

平成21年度江南市地域まちづくり補助金事業報告会

開催結果

江南市の市民活動の拠点である市民・協働ステーションにおいて、江南市地域まちづくり補助金事業報告会を開催しました。

平成21年度は5つの事業が補助対象事業として採択されました。各々の実施団体は、パワーポイントを利用したり、事業で行った指あそびを実際に紹介したり、事業の様子が紹介された新聞記事を配架したり、作品を展示したりと、伝える工夫を凝らして報告を行っていただきました。35名の参加者は、市内で行われた市民による地域まちづくりの活動を、目で見て手にとって知り、感じ、市民力の大きさや連携の大切さ、江南市の魅力を感じていました。



≪日時≫

平成22年3月27日(土)
午後1時30分～3時30分

≪場所≫

市民・協働ステーション
(地域情報センター2階)

平成21年度江南市地域まちづくり補助金について、審査委員会の加藤会長よりお話いただきました。

「地域について考えるきっかけにしてほしい」との思いから生まれたこの制度も、設置から2年が経過しました。初年度は3事業でしたが、今年度は5事業の応募・実施があり、市民による地域まちづくりへの関心が少しずつ広がりつつある様に感じます。この制度のキーワードは「地域」「連携」「継続」です。地域によって抱える課題が違う中、それを解決する主体は「地域」であり、様々な主体が「連携」してこそ広がりのある力が生まれます。また、昔から“継続は力なり”というように、小さな力でも根気よく「継続」すれば大きな力になり、課題解決の道をたどることができます。この制度は、同じ事業を2年(2年目は補助率、上限額が下がりますが)までサポートできる内容になっていますので、皆さまにはこういった制度を上手に利用し、地域まちづくりの活動を始め、続けていただくことを期待します。

①江南の伝統「かいこ」を伝える

代表団体：まゆを楽しむ会

古知野・藤ヶ丘児童館と協力して、江南市の伝統である「養蚕」のよさを伝え、大切にしていこうとする心を育てることを目的に実施しました。

まずは蚕の飼育に取り組みました。虫が大好きな子ども達にとって、日々成長する虫「蚕」は興味津々、不思議がいっぱいです。成長を記した「かいこ日記」を見ると、日々の変化の様子が鮮明に伝わってきます。素直で素朴な表現からは、自由に楽しく飼育した様子や、子ども達の感性の豊かさが伝わってきます。

まゆの収穫実習では、昔から使われている「毛羽とり機」を実際に使って収穫しました。昔の人の知恵からできた機械を手にも、昔の文化はすごい！と感動している様子でした。その他にも、桑の葉の不思議を勉強したりまゆ人形を作ったりと、様々な切り口から興味を引き出し、江南の文化や伝統のよさを伝える工夫を心がけました。その結果、当初の目的が達成されたとともに、他を思いやる優しい心が育ったと思います。



②子育てしやすいまちづくり

代表団体：飛高親の会

飛高ボランティア協議会と協力して、地域が交流する、地域を知る、地域の人を知る機会を提供し、住民のふれあいを広げることを目的に実施しました。

区の春祭の時に“子どもが出品・運営する模擬店”を出店しました。看板を作成したりゲームのルールを考えたりと、子ども達がアイディアを出し合い、主体的に参加する姿が印象的でした。夏には盆踊り大会において“子どもが楽しめる模擬店”を出店しましたが、春の経験を生かしてよく手伝ってくれました。来年度の計画を立てる時にも、経験を生かした様々なアイディアが出てきました。子どもにとって経験や楽しみは、次につながる大きな力になると実感しました。

その他にも、クリスマス交流会や茶話会など、地域で交流する会合を催し、世代間・同年間・区内外など「つながり」の大切さを感じることができました。

「ふれあいのある地域をつくりたい」との思いを実現するきっかけをいただき、大変感謝しています。



③子ども・大人かかわる力！「まちをあそぶ」

代表団体：(特)子どもと文化の森

地域の子どもの見守りはぐくむ大人の輪を広げていくことを目的に、3部構成で実施しました。

【導入部】「言葉」は子どもと大人をつなぐ重要な役割を担うと考え、「傾聴」について学ぶワークショップを開催しました。2つの力（相手を思いやる力と思いを正しく伝達する力）の必要性を学びました。

【展開部】“体験”の充実が必要であると考え、コミュニケーションゲームを体験する講座を開催しました。一方的な「かかわり」ではなく双方向に「かかわりあう」ことが重要であることを学びました。

【応用部】導入、展開での学びを“実践”する場として、愛栄・新町通り商店街を舞台に子どもと大人が遊びあう“まちをあそぼう「子ども探偵団」”を開催しました。実際に子どもと触れ合い、共にワクワクドキドキしたことで、子どもの時間に寄り添うことができる大人が増えたと感じました。また、商店街の中で子どもが声を響かせ動いたことで、まちが活性化し、子どもにも「わがまち意識」が芽生えたと思います。



活動報告を聞いて、一人の活動は点であってもつながれば線になり面になり広がりが生まれること感じ、「連携」を大事にしていきたいとの思いを強くしました。また、意見交換では、今後のあり方を考える上で参考になる貴重な意見をいただき、一人でも多くの市民が地域まちづくりに関心を持つ姿勢を作っていきたいとの思いを深く感じました。一人の市民が困っていることを解消できるような、一人の市民の思いを叶えるような、地域を結んでの活動を今後も応援していきたいと思います。

④松竹団地に花いっぱいを

代表団体：ハッピークローバー

松竹団地は、約580世帯、1,200～1,500人が生活する集合住宅ですが、高齢者世帯が多く、引きこもりや認知症といった様々な課題を抱えています。そこで、「美観、雰囲気の良いために花を植え、皆で花を育てる共同作業をとおして、住民のふれあいを深めたい。」「皆で健康維持を心がける環境をつくり、現在抱えている様々な課題を解消したい。」と考え、この事業を実施することにしました。

11、12棟の南に110個の花壇を造成し、1つの花壇に3株ずつ“花かたばみ”を植えました。一人では出来ない事も、皆で協力して行くと大きな力になり成し遂げられることを実感しました。また、作業していると、「何をしているんですか？」と声をかけてくれる方が多くいました。住民同士がふれあうよききっかけになったと思います。

今後は、住民皆で協力して“花かたばみ”を守る活動を行っていきます。独居老人を屋外へ誘う活動として、自治会と連携しながら、継続していきたいと考えています。



※参加者意見交換より

- ・この活動をもっと広く市民に訴える場を設けて欲しい。
- ・「連携」は難しいと思っていたが形にしているすごい。
- ・私にもできそうなことがたくさんあり参考になった。
- ・いくつか寄り添ったからこそよい結果を出された。



⑤子育てママ・パパ応援事業

代表団体：江南子育て探検隊「ここたん」

子育てを安心して楽しめるような環境や親のネットワークをつくりたいと考え実施しました。

「託児がないと動けない」といった声を反映し、希望が多かった3つの内容（スイーツデコ、有酸素運動、パウンドケーキ）について“託児付講座”を開催しました。犬山から北名古屋まで広範囲からの参加があり、「一緒に受講した方と友達になり連絡を取り合うようになった」などの感想をいただきました。生の声を調査し反映したことで、真のニーズに応じた講座を提供できた事がとてもよかったし、子育て中のママが一人で抱え込んでいるだろうストレスを少しでも解消できたのではないかと思います。

また、年6回子育て情報誌「ここたん」を発行しました。ママが本当に欲しい楽しい情報をママ目線で取材し提供しているためママたちへの浸透効果は高く大変好評です。口コミで広がり現在600部発行しています。これからも、まちとママを結ぶ媒体としての役割を担えるように、継続して発行していきたいと思っています。

